

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第26号(2009 04 30)
事務局川西地区自主防災会

地面の動きを見てみませんか？

国土地理院 四国地方測量部

『備えあれば憂いなし』これは皆さんご存じですね。この前に2段があり、『安きに居りて危うきを思う』『思えば則ち備え有り』『備え有ればうれい無し』とこうなります。

備えが有れば憂いが無くなるのは当たり前です。もっと重要なことは、安き今であるからこそ危うきことをしっかりと考えないといけないということです。」これは、群馬大学の片田敏孝教授が講演した内容の一部です。片田教授によると、これは「春秋」注釈書の中の「左氏伝」に書かれているそうです。

片田教授の講演を聴いてから「居安思危(こあんしき)」を是非広めたいと考えています。

さて、平安な今こそ、危うきことを思う一助にすべく、国土地理院のホームページを訪れて、地殻変動を見てみませんか。インターネットにつながっていない人には申し訳ありませんがおつきあい下さい。

<http://mekira.gsi.go.jp/project/f2/ja/index.html> を開くと図1の画面となります。

居安思危

思則有備

有備無患

春秋左氏伝

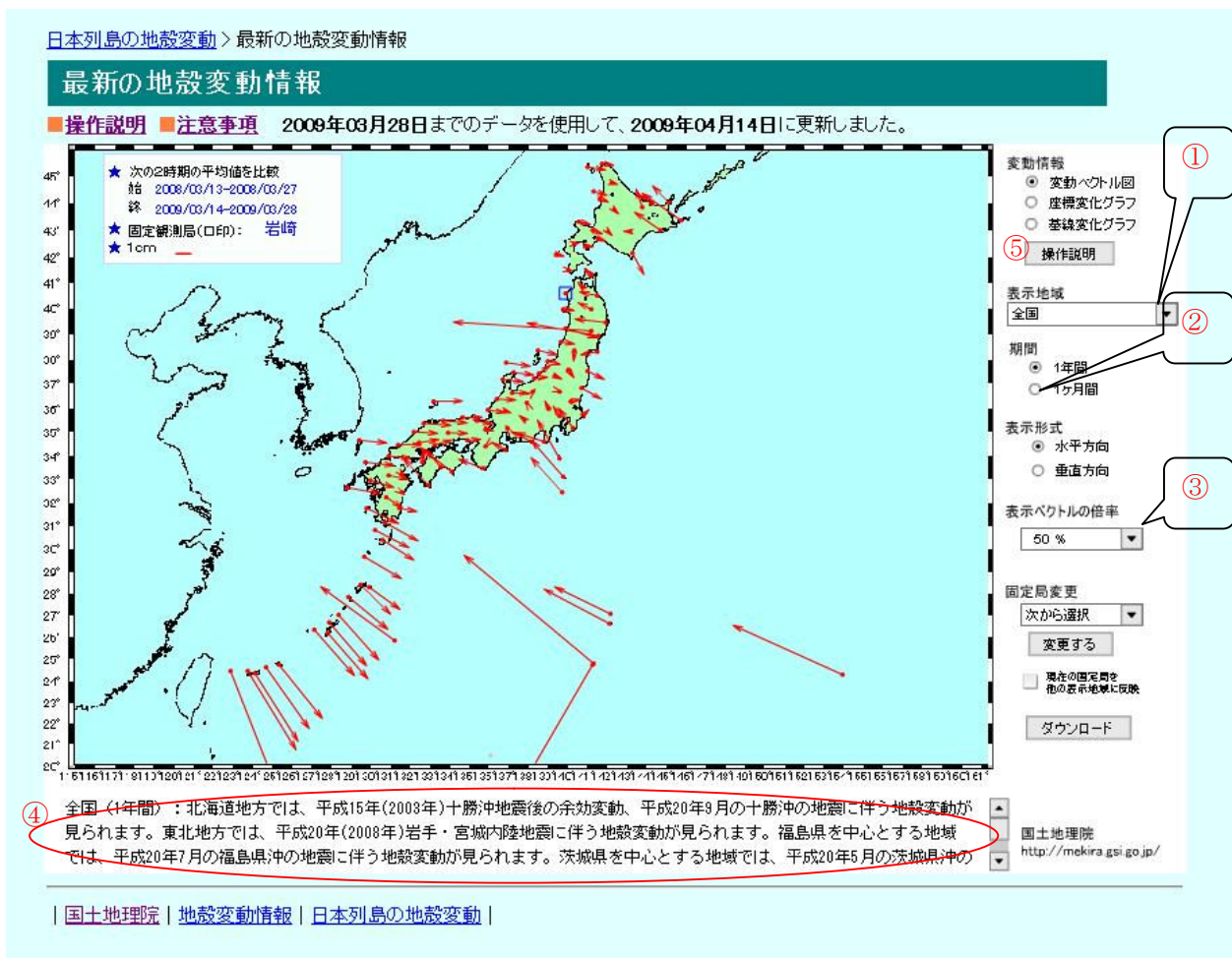


図1 (電子基準点が捉えた地殻変動のページ)

①をクリックして「近畿・中国・四国」を選びます。②は「1年間」か「1ヶ月間」の地殻変動を選択します。③をクリックして、変動量のベクトルを見やすい倍率に指定します。画面下④に地殻変動の特徴が簡潔に述べられています。

①は「近畿・中国・四国」を選び、②は「1年間」を選択し、③は「50%」を指定すると、変動ベクトル部分は、図2となります。

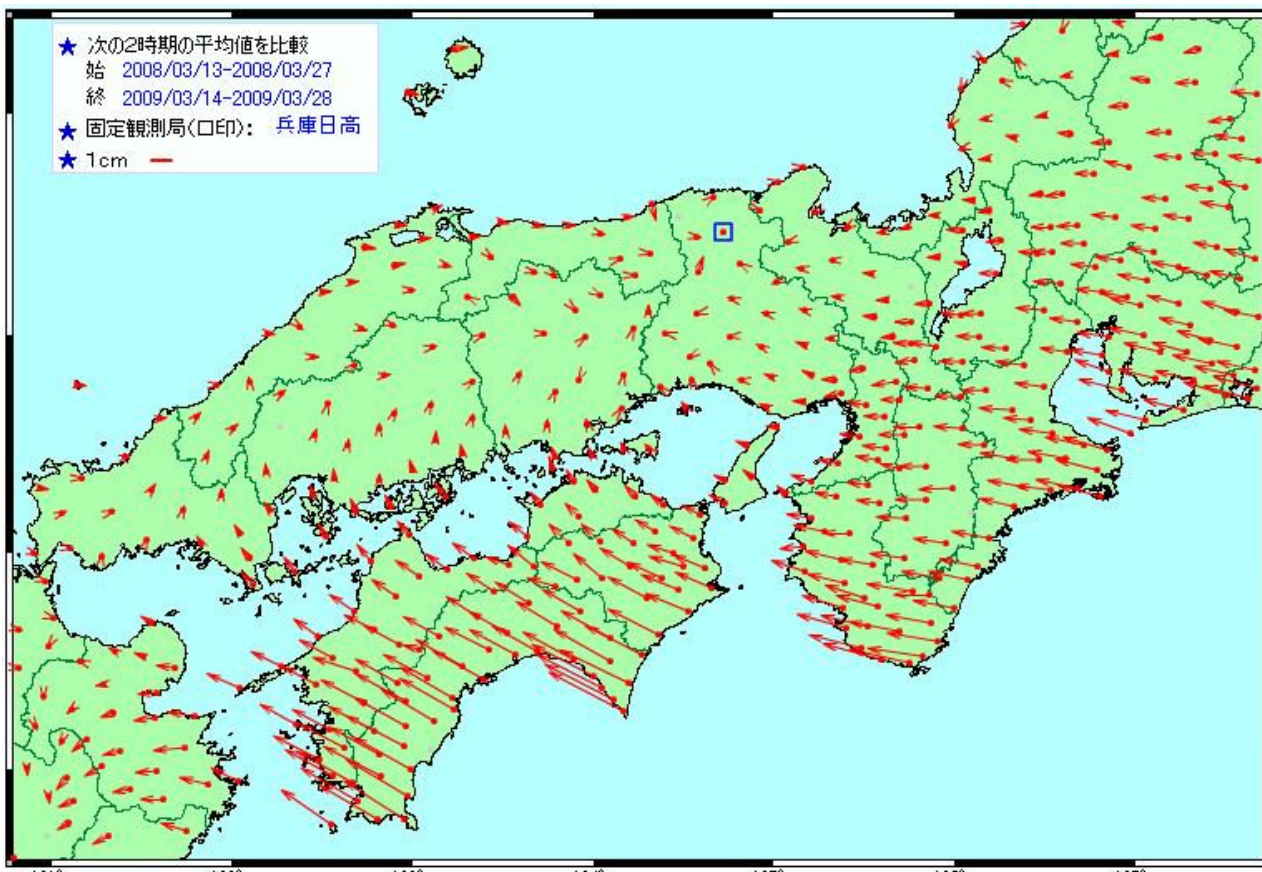


図2 (図1と同じページで表示条件を変えたもの)

このとき、図1の④の地殻変動の概要は次の通りです。

近畿・中国・四国 (1年間) : 兵庫県の兵庫日高観測局を固定すると、紀伊半島から四国の中央構造線より南側の地域にフィリピン海プレートの沈み込みに伴う北西～西北西向きの動きがみられます。これは、フィリピン海プレートの沈み込みによる影響と考えられます。中国地方では観測点間の相対変位が小さく、この地域の内部変形は少ないようです。

毎週火曜日に更新していますので、図1の②で1ヶ月を選択して、地殻変動の監視をすることが可能です。

さらに、ベクトルの根元の赤丸にカーソルを合わせると観測点の名称を表示します。

また、図1の⑤をクリックすると操作説明が見られます。

いかがですか、地殻変動を監視して、居安思危して見ませんか。

就任のご挨拶

香川県防災局危機管理課長 木村清貴

皆さん、はじめまして。4月1日から危機管理課長を務めている木村と申します。就任早々、北朝鮮のミサイル発射実験がありました。この発射が、香川県を含めて我が国へ影響を及ぼすおそれは小さいとされていましたが、万々が一の事態を想定すると、緊張が続く、長い時間でした。



さて、危機管理課では、今世紀前半に高い確率で発生が予測されている南海地震への備えをはじめとする防災対策、消防・救急活動に対する支援、火薬類や高圧ガスなどの危険物の保安対策などを業務としており、安全・安心な暮らしの確保に直結する非常に重要な部署であり、責任の重さに身が引き締まる思いです。

ところで、災害などの危機の態様は、多様化、複雑化してきており、これらに対して高度な対応も求められてきています。

一方、これまでの災害を見ると、災害が発生したときに頼りになるのは、普段から行う自らの備えであり、自主防災組織に代表される近隣の助け合いだと思います。

生活様式の変化や少子高齢化の進行なども影響し、地域の防災力が低下してきていると言われている中、かがわ自主ぼう連絡協議会を中心として、訓練や研修といった様々な活動に取り組まれていることは、大変頼もしく思いますし、心より敬意を表します。

県では、自助・共助・公助の連携と協働によって防災対策を進め、災害に強く、安全で安心して暮らせる郷土づくりの実現に向けて努力してまいりますので、引き続き、皆様方のお力添えをお願いいたします。

就任にあたり

防災局危機管理課 副主幹 穴澤孝雄

この度、危機管理課に異動してまいりました穴澤と申します。風水害や地震などの災害から県民の生命・身体・財産を守るという重大な役割の一端を担うことになり、身が引き締まる思いがしております。

私は、幼少時を北海道で過ごしましたが、そこは、昭和29年の洞爺丸台風で、まさに青函連絡船洞爺丸が沈没して、多くの死傷者が漂着した場所でした。また、昭和43年には十勝沖地震を体験し、大人達が津波が来るかもしれないと話しているのを聞いて、恐怖を感じたことを今でもはっきり覚えています。

こうしたことが影響したのか、気象をはじめ自然現象に興味を持ち、大学でも、それに関連した分野を学びましたが、今回初めて防災関係部署に配属されることになりました。今後は、微力ではありますが、自主防の皆様方とも力を合わせて、香川県の防災対策の推進に努力して参りたいと考えておりますので、どうかよろしく申し上げます。

就任にあたり

防災局危機管理課 主任 河野祥幸

この4月より県危機管理課に参りました河野と申します。

16年度の災害では、実家の近くでもまさかの冠水に見舞われ、家族の車が廃車になりました。生まれてこのかた30数年（当時）、ほぼ意識の外にあった「災害」が、ある日突然身近に起こりうることを改めて思い知らされました。

風水害もさることながら、東南海・南海地震は、何年か先には必ず起こります。また近年では新潟や能登半島付近など、比較的地震の発生確率が低いといわれてきていた地域でも大きな地震が発生しており、わが香川県も、いつ大きな災害に見舞われるか分かりません。

県民の皆様は災害への備えについてより深く認識していただけるように努力してまいりますとともに、あつてほしくはないことですが、有事の際には県民の皆様のお役に立てますよう全力で取り組んでまいりたいと考えていますので、なにとぞよろしくお願ひします。

就任にあたり

防災局危機管理課 主任技師 横井孝博

本年4月から危機管理課・危機管理南海地震グループに異動になりました横井と申します。

これまでは、土木部で河川改修や砂防ダムの建設、また平成16年の台風時には、ダム事務所でダム管理をおこなっていましたが、これからは、地震や火災など全ての危機管理をおこなうこととなり今まで以上に防災意識、危機管理意識が高まりました。

また今回このような「防災・減災の輪」を読み、自主防の皆様がいろいろな取り組みをおこなっていることに驚かされるとともに大変勉強になりました。

毎年やってくる台風、突然やってくる地震に対して、県民の皆様と十分な準備をするともに、災害時には一体となって災害活動にあたっていきたいと思いますのでよろしくお願ひします。